



置き配グッズ活用 再配達削減 1次アンケート結果

高森町は令和6年度に、置き配グッズ（バッグ、プレート）を活用して再配達を削減するモニターを募集しました。令和6年5月に取り組みを開始後、6月まで実施した状況のアンケート結果をまとめました。

- 事業目的 ①ゼロカーボンへの関心を持ち、環境に優しい生活を実践する。
②置き配グッズを活用することによる、再配達削減、二酸化炭素の排出防止。
- 募集対象 高森町民（希望者）
- 取組人数 40名（置き配バッグ20名、置き配プレート20名 いずれか1つを選択）
- アンケート 回答数32名（バッグ15名、プレート17名）
- 実施期間 令和6年5月～令和6年6月（取り組みは令和6年9月まで）
- 取組内容 (1)玄関先に置き配バッグまたは置き配プレートを設置
(2)宅配の受け取りに使う
(3)アンケートに回答



置き配バッグ（OKIPPA）



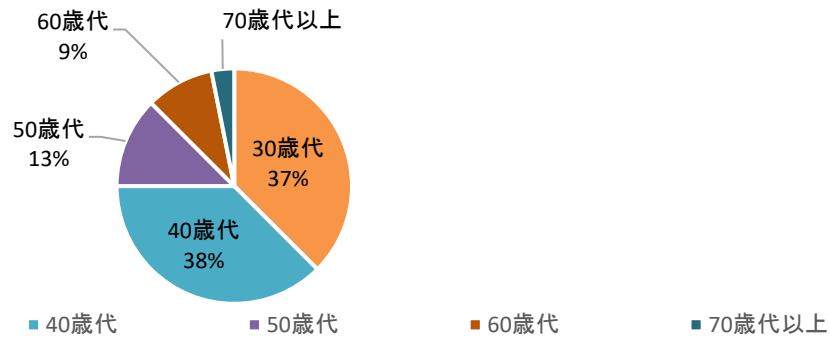
置き配プレート

アンケート結果

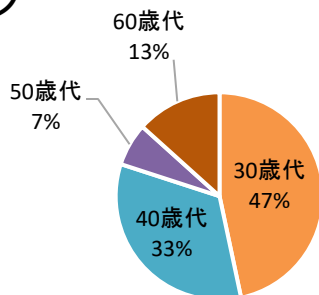
1、申し込みの年代

- 取り組みには幅広い年齢層の方が参加しています。30～50歳代が88%であり、働く世代からの申し込みが多くありました。

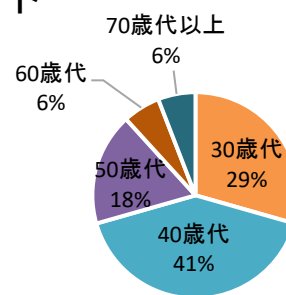
全体



バック



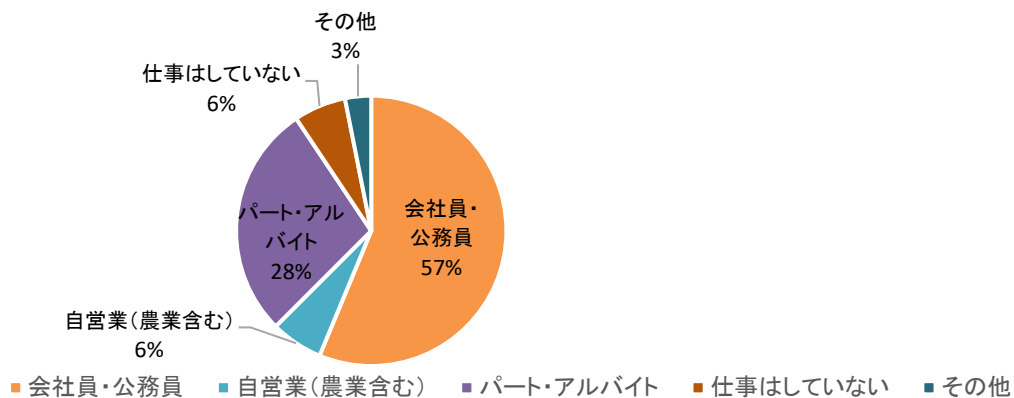
プレート



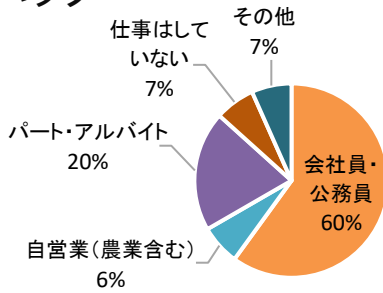
2、職業

- 91%の方が就労しています。働いていて、日中、家に居る時間が少ない世代に活用されています。

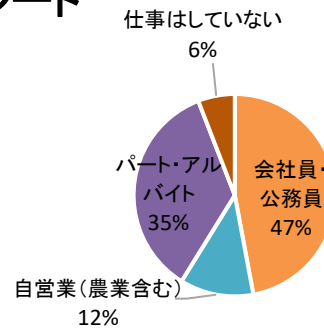
全体



バッグ



プレート



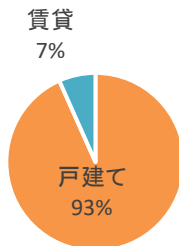
3、居住の形態

- 84%が戸建て住宅に居住しています。一軒家の多い、農村地域の特徴を示しています。また、戸建て住宅は置き配に取り組みやすいことが、申込者数の多さにつながったと考えられます。

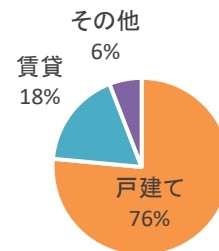
全体



バッグ



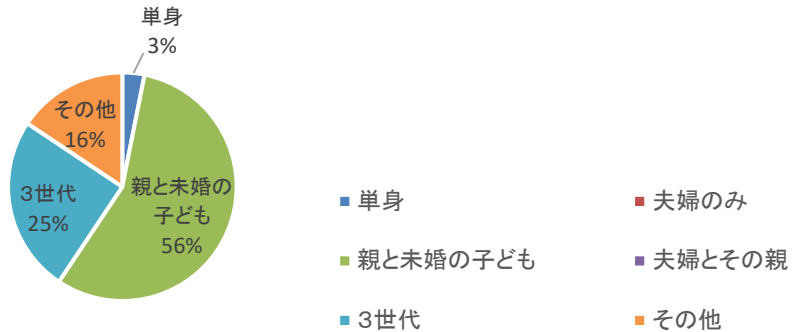
プレート



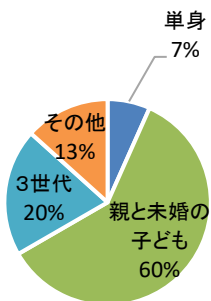
4、家族構成

- 「親と未婚の子ども」、「3世代（夫婦と子ども、夫婦の親）」の構成が81%になります。
「1、申し込みの年代」の特徴を含めると、子育て世帯に多く利用されていることがわかります。

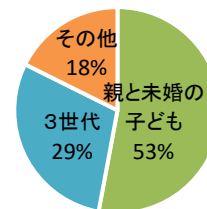
全体



バッグ



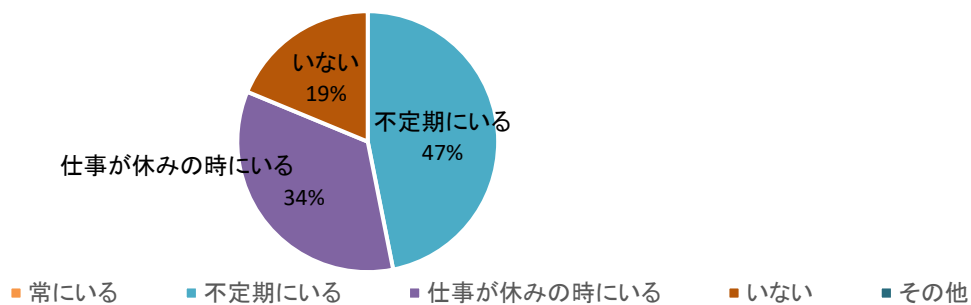
プレート



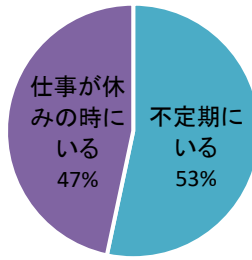
5、日常の在宅状況

- 「仕事が休みの時にいる」、「いない」の合計は53%、「不定期にいる」を含めると100%になります。普段、荷物を受け取る人が家にいない状況にあります。

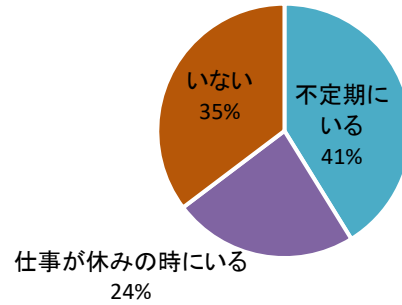
全体



バック



プレート

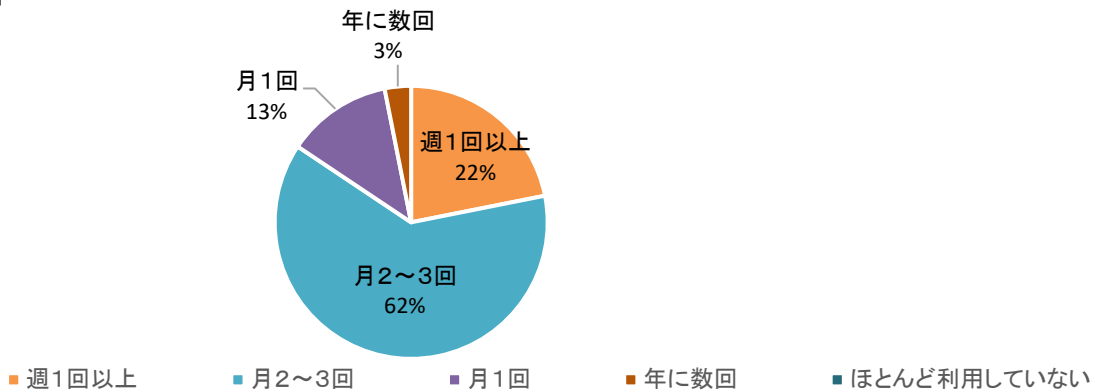


6、インターネットでの商品購入頻度

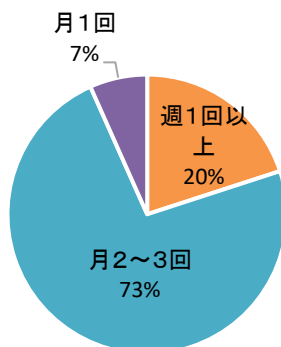
- 1ヶ月に2～3回以上、インターネット通信販売を利用している割合は84%、月1回以上の割合を含めると97%になります。インターネットを活用した商品の購入が生活に浸透していると言えます。

モニターの中には、インターネット等の通信販売を「ほとんど利用していない」方は、いませんでした。

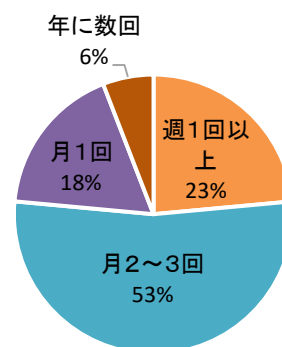
全体



バック

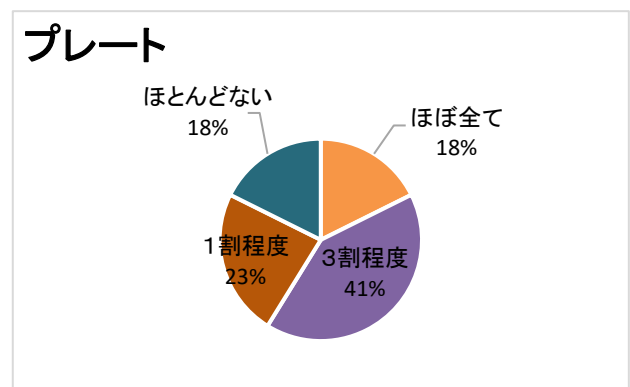
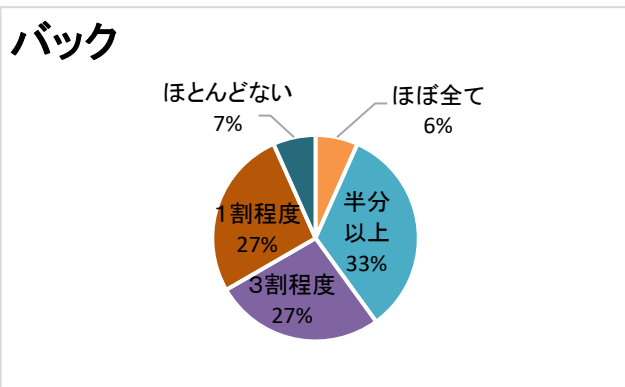
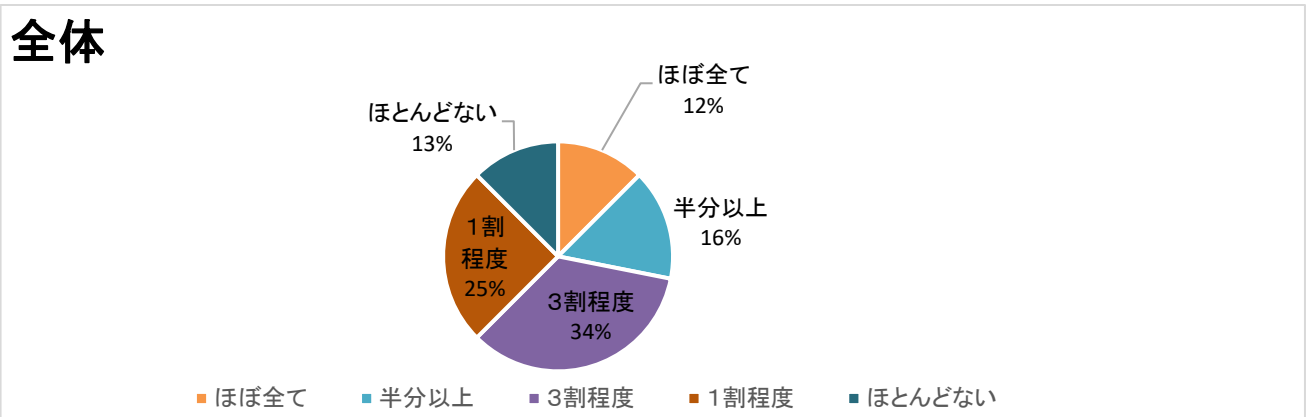


プレート



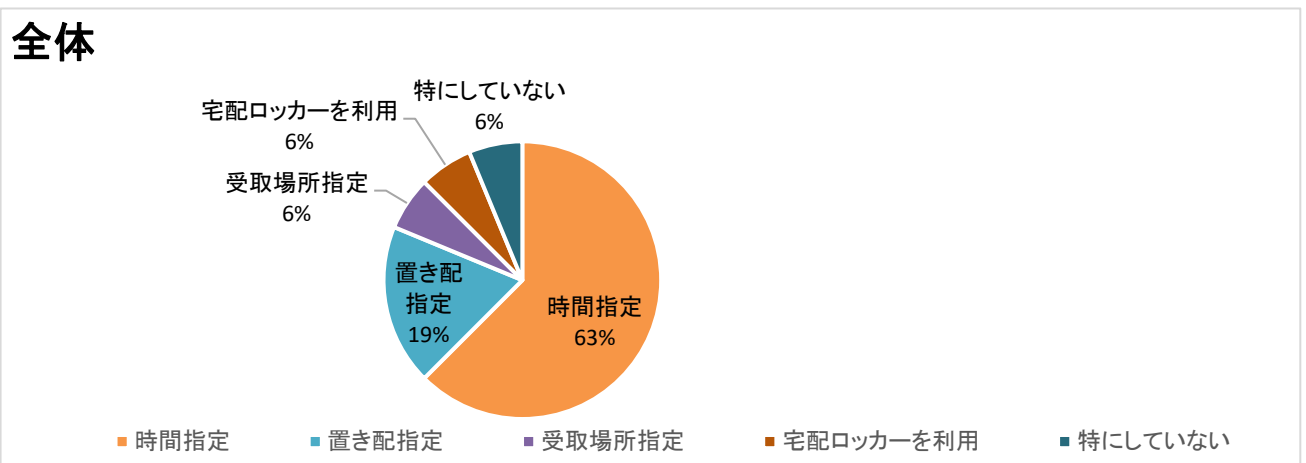
7、実証実験前の再配達の割合

●全体の6割を超える方が、置き配グッズを利用する前は「3割以上の荷物」が再配達になっていました（全体62%、バッグ66%、プレート59%）。

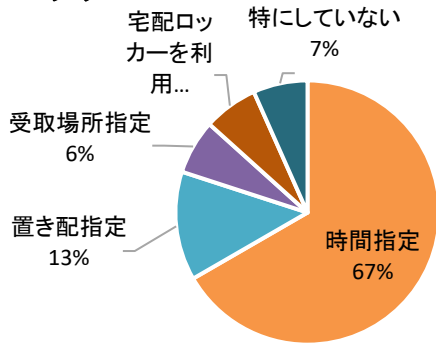


8、実験前の再配達削減方法

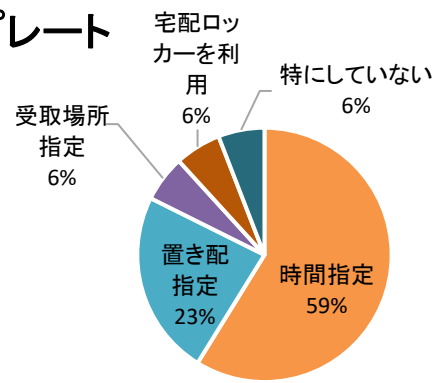
●置き配グッズを利用する前は、全体の6割を超える方が「時間指定」をして、再配達を削減していました。「置き配指定」は全体の19%で2番目に多い取り組みでした。何らかの取り組みをしている方は94%になり、モニターの皆さんが再配達を減らす工夫をしていることがわかりました。



バック



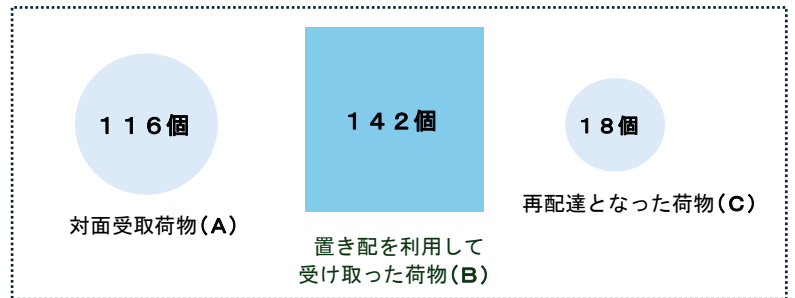
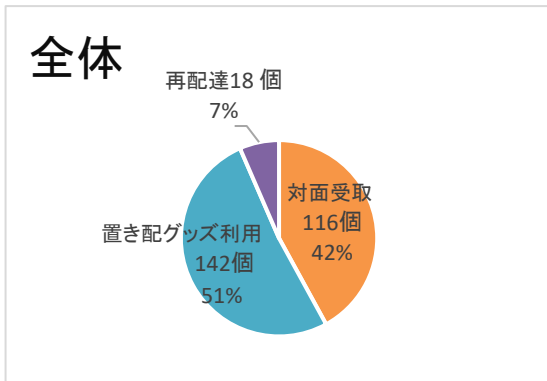
プレート



9、再配達抑制割合

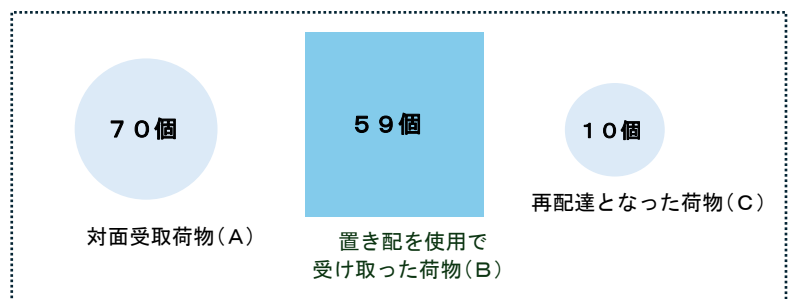
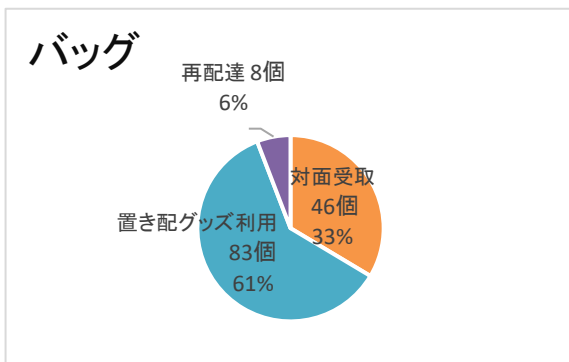
- 置き配グッズを活用して受け取った荷物は、全体では142個あり、グッズ1個あたり平均4.4個受け取ったこととなります。グッズを使うことで、再配達になってしまわずだった荷物のうち、88.8%を抑制したこととなります。バッグよりもプレートの方が置き配の利用割合が高い結果となりましたが、今後の推移を見守っていきます。

☆全体 ☆再配達抑制率 = $\frac{B}{B+C}$ = 88.8%



☆置き配バッグ

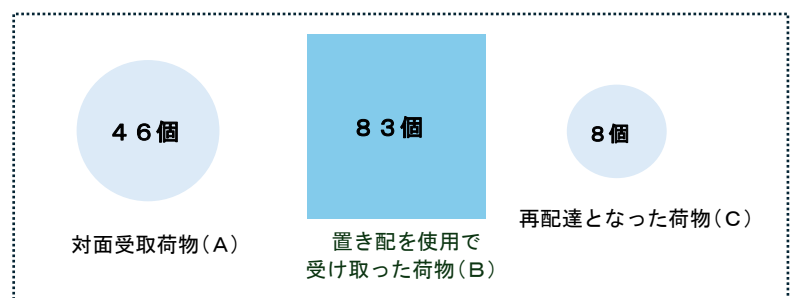
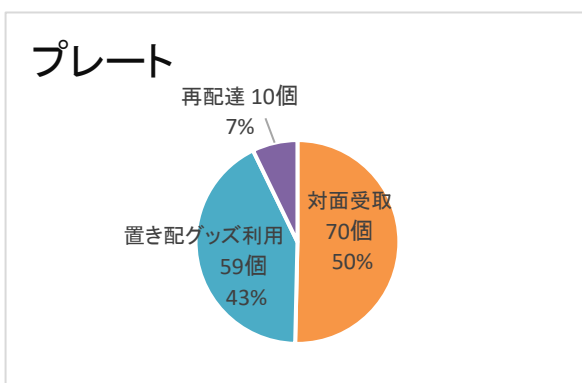
バッグを活用して受け取った荷物は59個あり、グッズ1個あたり平均3.9個受け取りました。配達の抑制率は85.5%でした。



バッグ1個あたり平均3.9個 抑制率：85.5%

☆置き配プレート

プレートを活用して受け取った荷物は、83個あり、グッズ1個あたり平均4.8個受け取りました。配達の抑制率は91.2%でした。



プレート1個あたり平均4.8個 抑制率：91.2%

10、再配達の割合

- 置き配グッズを活用する取り組み後の再配達の割合は、全体で6.5%でした。活用する前は、全体の6割を超える方が、「3割以上の荷物」が再配達（全体62%、バッグ66%、プレート59%）であったことから、再配達を大幅に減らすことができます。

再配達の割合 全体：6.5%（バック：13.7% プレート：4.8%）

11、再配達の原因

- 今回のアンケートで、置き配グッズを活用後にも再配達になる理由として、以下の点がありました。商品を購入時に置き配指定をしなかった（できなかった）、配達員が対応しなかった、置き配できない種類の荷物だったこと等が理由でした。

- ・置き配指定をしなかった
- ・クール便等であった
- ・本人確認が必要なものだった
- ・代引・着払い等
- ・配達員が置き配をしなかった
- ・置き配グッズを設置し忘れた
- ・その他（大雨のため）

12、まとめ

- 取り組みを始めて2ヶ月が経過しました。アンケート結果から、置き配グッズを活用することにより、大幅に再配達を削減できていることがわかりました。引き続き、取り組みをしていきます。
生活に身近な取り組みが、ゼロカーボンにつながることを期待しています。